

満願寺と 栄根寺廃寺

この地域には千年以上もの歴史をもつ二つの寺院があります。それぞれ固有の信仰を集め、現代まで受け継がれてきた過程を探ってみましょう。

岡野 慶隆 郷土史研究家

栄根寺廃寺の場所

今日はコミュニティひばりのエリア近辺に古くからある満願寺と栄根寺廃寺についてお話させていただきます。これらはいずれも川西市にあります。左図の緑色で囲んである範囲が栄根寺廃寺遺跡で、東西150m南北で250mの細長い範囲となっています。現在、阪急川西能勢口駅の西側に小さな境内地が残っておりますが、以前は薬師堂がありました。JR川西池田駅を中心として赤い線で示した範囲が栄根遺跡で、弥生時代から古墳時代、奈良時代、平安時代に栄えた遺跡がすぐ隣にあります。

栄根寺廃寺



栄根寺廃寺周辺図



薬師如来像



栄根寺薬師堂

栄根寺薬師堂と 薬師如来像

右上の写真は栄根寺薬師堂です。江戸時代に建てられた建物ですが、残念ながら平成7年の阪神淡路大震災で被災し現在は無くなっています。この薬師堂には薬師如来像（写真左上）が安置されてきました。これは川西市で一番古い仏像になります。平安時代後期の作といわれて、兵庫県指定文化財になっている薬師如来像です。



阪神淡路大震災による 被害

平成7年1月7日の阪神淡路大震災で、この薬師堂も被害を受け、いつ余震で倒れてしまいかわらない状況でした。2ヶ月ほど経った3月13日に全国の大学、博物館等で組織された文化財レスキュー隊（文化財を震災から守ろうという組織）が結成されており救出を依頼しました。震災後、仏像はこの中にずっと入ったままでしたが、余震で二次被害が発生する恐れもあり救出できない状況が続いていたのです。



左側の石碑が倒れています。これは銭屋五兵衛の顕彰碑です。当時は薬師堂のすぐ横に建っており震災で倒れた状態でした。



救出は、美術品を扱う専門の方が来られ薬師如来像、日光菩薩像、月光菩薩像等を写真のように丁寧に梱包し川西の文化資料館に移されました。

平安時代後期の 仏堂跡が見つかる

左はその図面です。礎石の残っているところをつないでいきます（外側の赤点線枠）と一辺が14mほどの大きさのお堂跡であるというのが分かりました。真ん中のところ（内側の赤点線枠）は建物の中心部で「身舎」といいます。その中央に先ほど写真に写し

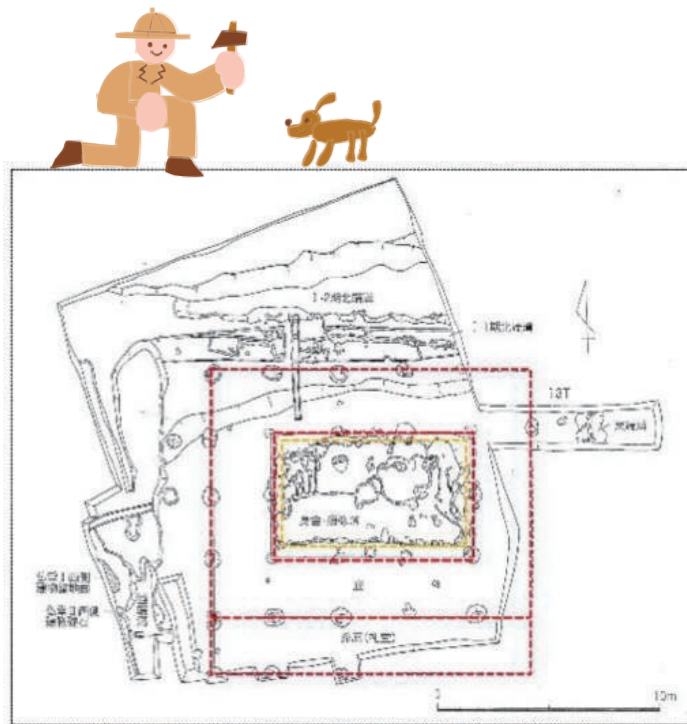
た須弥壇（ご本尊を安置する台）として石垣で築いたものが見つかりました。お堂の南側に（赤い点線）仕切りがあります。この仕切りから南側が礼堂と呼ばれるご本尊を礼拝する礼拝空間となっています。奈良時代の古いお堂と違い平安時代になって信者の方がお参りする空間というものが出来た頃の建物だということが分かってきました。



現地説明会の様子。220名の方が集まりました。

大震災後の発掘調査

薬師堂が解体された後、マンションの建設が計画されたために川西市の教育委員会で発掘調査を行いました。私も川西市教育委員会で文化財の仕事をしていた頃の調査です。地面を1mほど掘ったところで平安時代後期（11世紀）の仏堂（お堂）跡が見つかりました。写真のように礎石や礎石を抜いた跡があり、中央に石垣でつくった高まり（須弥壇）が見つかりました。これはすごい成果であったために新聞発表を行い、平成12年1月18日には現地説明会を行いました。



見つかったお堂のご本尊が何であったのかということも問題となりました。普通、考古学で発掘を行うと建物の大きさや構造が分かりますが「ご本尊が何であったか？」という情報は分かりません。

仏堂跡の本尊仏

発掘時に須弥壇（ご本尊を安置した台）の上に十センチメートル以下の銅で作った懸仏が何体か見つかったようです。花瓶といったものも横につけてよく出土します。では「この懸仏や願い事をしたお堂のご本尊は果たして何なのか？」というところ、懸仏では（左図の赤色円のところ）左手に玉のようなものを持っていません。先ほど震災で救出された薬師如来像の写真を見ていただくと左手に薬壺を持っています。この懸仏の玉のようなものも薬壺であり、ご本尊は薬師如来であったことがわかります。しかも、震災で救出された薬師如来像そのものがお堂のご本尊だったことがわかったのです。発掘で見つかったお堂は室町時代に火災で焼けております。その後建て替えをしたりしてはいますが、この薬師如来像は修理を続けながら現代に伝わってきたことがわかってまいりました。



出土した懸仏の円盤の方は完全に潰れておりませんので、復元するとこのような形になります。

懸仏とは…お参りする時に願い事をかけたり、願い事が叶った時にお礼に奉納されたもの。円盤の中にご本尊をかたどった小さな仏像をつけてお堂に懸けてお供えする。

中世伽藍の復元

遺跡内でも他のところの調査では伽藍遺構が見つからないもののお寺の全体像を考えてみました。



ここにダイモンという地名が残っています。現在このダイモンという地名の場所から見ると、写真のように大門というお寺の門があって、そこから北に参道を登っていくと発掘で見つかったお堂に突き当たる風景が想像できます。

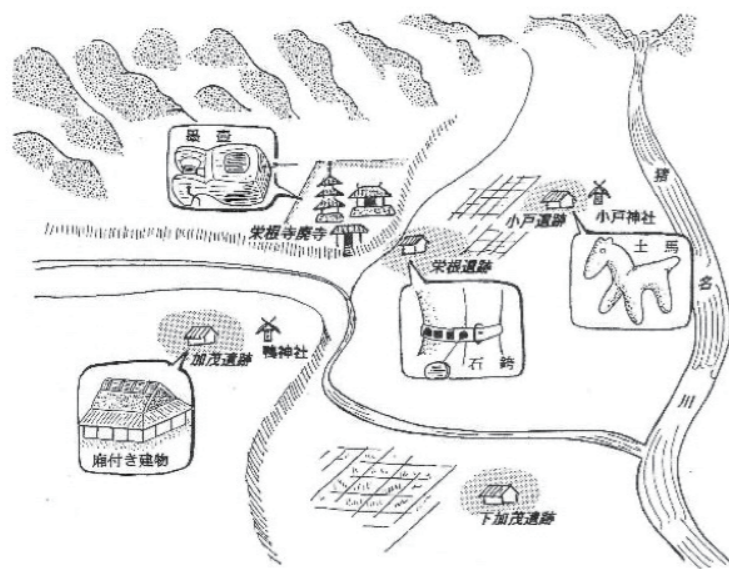


不明な創建伽藍

このような伽藍配置から見ると、発掘で見つかったお堂は平安時代に建立された本堂であり、ご本尊は薬師如来ということがわかります。ところがこの栄根寺廃寺はもともと古く、奈良時代の創建ではないかといわれています。発掘で見つかったお堂は11世紀に造られたもので、平安時代の再興本堂ということになります。境内地で奈良時代の古代瓦が出土しています。また、以前川西能勢口駅前再興発で調査をしたところ、すぐ隣の栄根遺跡で奈良時代の墨壺が出土しています。墨壺は当時お寺などの精巧な建物を造るときに使われており、出土した墨壺は栄根寺廃寺の創建に使われたのではないかと考えられます。ここまでの調査はできていますが、肝心の創建伽藍がどこにあったのかはまだ分かっておらず、これからの課題となっております。

奈良時代の川西南部

イラスト



奈良時代の川西南部

肝心の創建伽藍がこれから見つかるのではないかと夢を持っています。



川西南部では弥生時代の加茂遺跡は有名ですが、発掘をしていると弥生時代だけではなく古墳時代の集落もあれば奈良平安時代の集落等色々な時代のもが出てきます。奈良時代で見ますと加茂遺跡もあり、延喜式内社の鴨神社があります。栄根遺跡、小戸遺跡もあり、

近くには延喜式内社の小戸神社もあります。このように奈良時代の村々が川西南部にありますが、この栄根遺跡からは当時の役人の制服の革のベルトにつける石鏝が2つ出土しています。このことから、この地域の中心に有力氏族が住む栄根遺跡があり、西側に氏寺として栄根寺廃寺を建立したのではないかと考えられます。



猪名川流域の古代寺院

猪名川を挟んで西側が兵庫県で古代の川辺郡、東側が大阪府で古代の豊島郡になります。この川の両側に現在川西市、伊丹市、尼崎市、池田市、豊中市があります。図に示すように各所に伊丹廃寺、猪名寺廃寺、石積廃寺、金寺山廃寺と古代寺院があります。これらはそれぞれの郡を代表する有力氏族が建立したものです。

川西市は長い間分からなかったのですが、最近の発掘で栄根寺廃寺があったことがわかりました。こうしてみると、古代の川辺郡、豊島郡の役人に就任するのを競っていた有力氏族が点在していた証でもあると思います。

待たれる薬師堂再建

栄根寺廃寺の調査の成果が出たことから、現在のこの場所は川西市で借りて栄根寺廃寺史跡公園として須弥壇や仏堂跡を復元しています。ただ薬師堂は壊れたままで、薬師如来像も川西市文化財資料館で預かっているままになっていますので、薬師堂の再建が待たれています。



栄根寺廃寺史跡公園